

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立川副中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

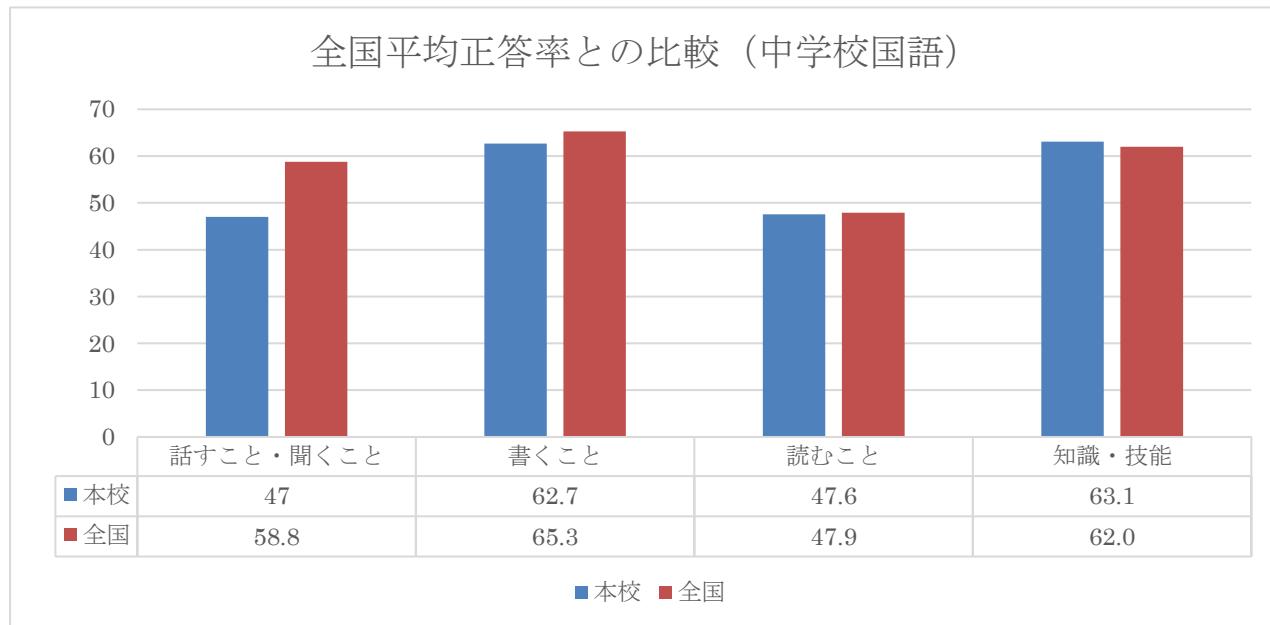
(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例)学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

■調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察



1 国語

(1) 結果

「話すこと・聞くこと」「書くこと」は、全国平均正答率を下回っています。特に「話すこと・聞くこと」は 11.8 ポイント下回りました。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「読むこと」「知識・技能」の領域においては、正答率が全国平均とほぼ変わらない値となりました。読書の推進や授業における読む活動を継続して行った成果が表出したと考えられます。課題は、「相手の意図を汲み取ったり、考えを適切な言葉で伝えたりする」力を身につけることです。「話すこと・聞くこと」の項目における正答率は、全国平均を 11.8% 下回っており、「話合いの中の発言」の意図を理解できていないと思われる解答が見られます。また、「要約」や「説明」といった「書くこと」では無解答率が高く、「書くこと」自体に苦手意識を持っていると考えられます。課題に対して自分の意見を書き、話合いや対話に繋げるような活動を授業に取り入れることが必要だと捉えています。

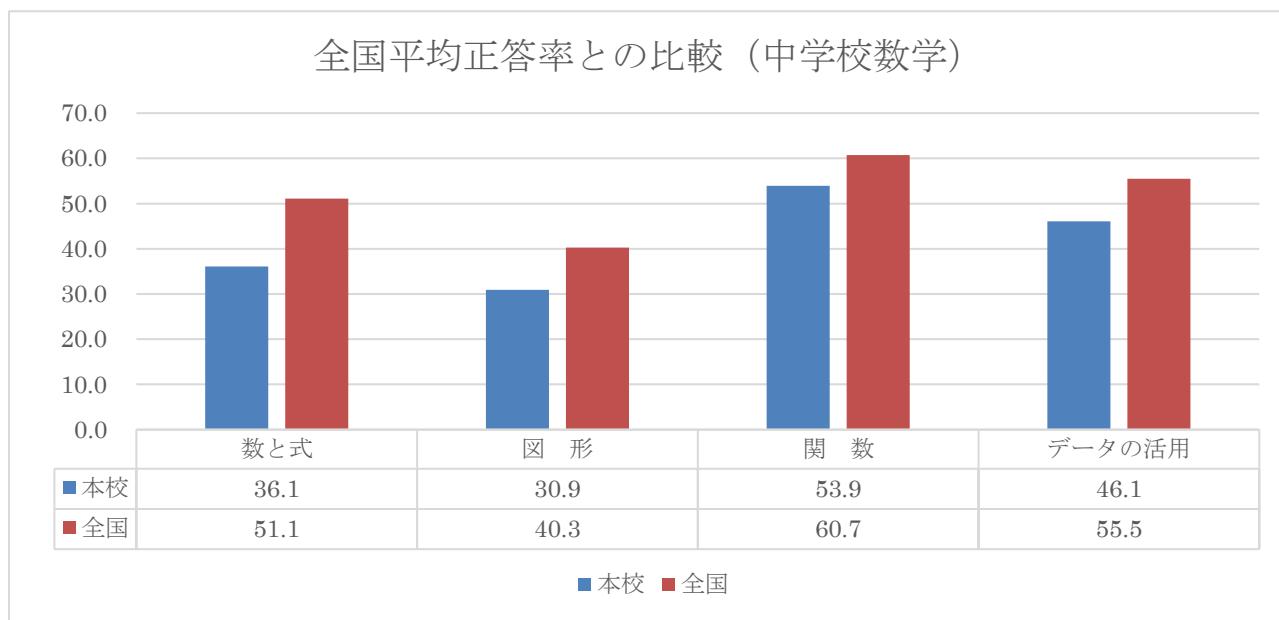
(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその根拠を明確にしながら書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に力を入れるとともに、ICTや辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。



2 数学

(1) 結果

全ての領域で全国平均正答率を下回っています。特に「数と式」では無解答率については、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「数と式」領域の「問題場面における考察の対象を明確に捉える」問題や「図形」領域の回転移動についての理解をみる問題の正答率が高い値となりました。基礎的な事項を繰り返し演習した成果が現れていると思われます。課題は、記述式の問題に対する無解答率の多さです。「証明」の問題の無解答率は45.8%でした。

今後、日々の授業の中で、自分の考えを書き、表現することができるようになりますことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 日々の授業の中で、小テストなどの知識・技能を振り返る場面を設定し、繰り返し指導することで定着を図ります。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動や学び合いを取り入れています。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんの学習の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。保護者の方の関わりがお子さんのモチベーションを向上させます。
- 計算の技能は毎日の積み重ねが重要です。毎日、問題を解く習慣を身につけさせてほしいと思います。
- 日常の中で数学を使う便利さを経験させることで、数学的な思考力を育むことができます。意識的に数学を活用させてください。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかで言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	78.3%	79.1%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	31.3%	34.9%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	60.2%	55.3%
自分にはよいところがあると思いますか。	45.8%	40.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	28.9%	36.1%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	75.9%	68.6%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	84.3%	77.5%

生活習慣に関しては全国平均とほぼ同じです。今後も家庭と学校が協力して、生活リズムを整えるよう声かけしていきましょう。「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはいけないこと」と思っている生徒の割合が全国平均を大きく上回っており、高い規範意識を持っていることが分かります。しかし、「将来の夢を持っている」生徒は3割以下で、将来を思い描いていない様子がうかがえます。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「3時間以上」	2.4%	9.2%
「2時間以上、3時間より少ない」	14.5%	22.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	41.0%	32.6%
「30分以上、1時間より少ない」	30.1%	18.4%
「30分より少ない」	8.4%	10.4%
「全くしない」	3.6%	6.6%

家庭学習の時間が全国平均よりも低く、1時間未満の生徒が4割以上おり、個人差も見られます。家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を伝えるとともに計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても毎日取り組み、定着しています。さらに、授業で学んだことが定着できるように、繰り返し復習させます。
- キャリア学習を通して、将来について考える機会をもちます。また、他者と関わる中で自分の良さに気づかせ、自身を見つめさせることで、夢や目標を持つきっかけを作ります。

【ご家庭では】

- 学校便りや学年便りをご覧になり、学校を話題にした会話を増やしてください。
- 「学年+1」時間の学習時間目標に、決まった時間に家庭学習を行う習慣づけをしてください。
- お子さんの成功や努力した過程、挑戦や成長など、どんな小さなことでも逃さず、大いに褒めてあげてください。